

水道水ができるまで

川や湖などから取り入れた水は、浄水場で処理を行い、さまざまな検査を行っています。

浄水処理の仕組み



着水井

川や湖などから取り入れた水が最初に到着するところです。水にかび臭物質などが含まれている場合には、必要に応じて粉末にした活性炭を注入し、これらの物質を吸着除去します。

沈でん池

着水井から送られてきた水に薬品を加えてよく混ぜると、水の中にある小さな汚れは大きな固まりとなり、沈でん池の底に沈みます。

急速ろ過池

沈でん池から送られてきた水を砂や砂利の中を通して、小さな汚れを取り除きます。

消毒設備

急速ろ過池できれいになった水に塩素を入れて消毒します。家庭の蛇口まで消毒効果が持続するように、塩素の濃度を調節します。

塩素処理の効果

水道水は塩素(次亜塩素酸ナトリウム)で消毒することによって、そのまま安心して飲めるよう安全性が保たれています。

塩素は雑菌や病原菌などに対して強力な殺菌力を持っていますが、水道水に含まれる濃度では水道水を一生飲み続けても健康には影響ありません。



▲浄水場では一般細菌の検査を毎週行っています

残留塩素について

塩素は水道水中に残るため、消毒効果が持続し、雑菌の発生を防ぎます。



▲塩素消毒あり(水道水)



▲塩素消毒なし(原水)

各施設の見学

川井浄水場

▲ 旭区上川井町2555

小雀浄水場

▲ 戸塚区小雀町2470

青山水源事務所

▲ 相模原市緑区青山3482

浄水場などの見学は、横浜市ウェブページをご確認ください。

横浜市 浄水場 見学

検索

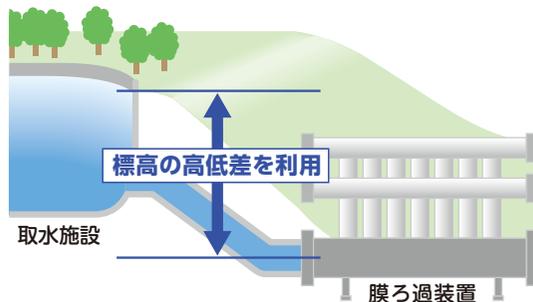
川井浄水場では、

日本最大規模の膜ろ過装置を導入しています

膜ろ過装置とは、細かい汚れを取り除くことができる膜を使用して水をろ過する装置です。川井浄水場ではセラミック製の膜を使用しています。

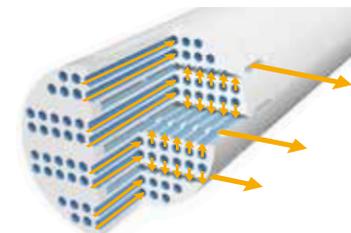
一般的な膜ろ過方式では、多くの電力を使用してポンプの力で水を膜に通してろ過しますが、川井浄水場は、取水施設からの高低差による自然エネルギーを最大限に活用しています。電力を使わずに水をろ過する環境にやさしい浄水場です。

自然エネルギー活用の仕組み



水圧で膜ろ過装置に水を送り、ろ過します。

セラミック膜



→ 水の流れ